

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2770900856		
法人名	医療法人 杏仁会		
事業所名	グループホームブルーベリー		
所在地	高槻市東和町57-1		
自己評価作成日	平成 28年 9月 9日	評価結果市町村受理日	平成 28年 11月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2770900856-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 9月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・献立を決め、買い物、調理を行っている。 ・庭には畑があり、収穫した物は食卓に並んでいる。 ・買い物、散歩、庭、畑いじり等、外へ出る機会が多い。 ・敷地内には老健、居宅事業所、隣接してクリニック、デンタルクリニック、保育園がある。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

老人保健施設やデイケアセンター等を運営し、地域で活躍する医療法人が運営している1ユニットのグループホームです。老人保健施設やクリニックと隣接し、緊急時には24時間いつでも適切な医療や支援を受けることができます。木立と芝生、花に囲まれた通路を通り玄関を入ると、広々とした食堂兼居間があり、利用者と職員、近隣来訪者等の明るい笑い声が聞こえてきます。利用者はソファでくつろぎ、買物や散歩、花壇の水やり、趣味の活動等、日常生活を楽しんでいます。食事は毎日の献立を利用者と相談して決め、一緒に買物に行くことから取り組んでいます。利用者が菜園で育てた野菜も調理して楽しんでいます。利用者は毎日夜間入浴をして安眠できている、外出等で体を動かしていることから、心も体もリフレッシュしています。保育園や学校との交流もあり利用者は地域での存在感を高めています。家族会が開催され、家族からの要望を受けて外出支援を充実した経過もあります。職員はやさしく勉強熱心で家族との連携も良く、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「輝いて共に生きる」を基に、「ゆっくり一緒に楽しむ」をホームの理念として掲げ、日々ケアに取り組んでいる。	法人の理念「輝いて共に生きる」に沿ってホーム理念を掲げ「ゆっくり一緒に楽しむ」としています。職員は「住みなれた地域で入居者の生きがいづくりをサポートします」と理念を具体化して日々の支援に取り組んでいます。理念はホーム内に掲示して職員間で共有し、地域密着型サービスの意義を踏まえた支援を進めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日スーパーで買い物をしたり、散歩に出かけたりしている。 保育園、小学校や中学校との交流もあり、体育祭や文化祭も見学したり、お祭りや花火大会には参加して頂いたりしている。	利用者は地域のスーパーへ毎日のように買物に出かけたり、散歩にも出かけることで近隣の人々と馴染みの関係を築いています。また、近くにある保育園との交流、小学校の体育祭や中学校の文化祭見学、地域のお祭りや盆踊り、花火大会等にも出かけて地域住民と交流しています。同法人デイケアセンター利用者と交流する機会もあります。近隣住民が利用する喫茶店にも出かけて他のお客さんとの会話を楽しんでいます。ホームでは、地域包括支援センターが認知症の方や家族の憩いの場（認知症カフェ）として運営している「ほのぼのカフェ」との連携や地域貢献についても検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でお話しさせて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見はスタッフと話し合い、運営者にも報告し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、年6回開催しています。参加者は利用者及び家族、市職員、地域代表として民生委員、ホーム職員等です。年に2回は家族会と同じ日に開催し、家族が参加しやすいようにしています。会議ではホーム行事や今後の予定、利用者の生活状況を中心に報告し、参加者の評価や意見を聞いています。毎回議事録を作成し、出された意見や要望はホーム運営に活かしています。	運営推進会議の開催概要は決めています。守秘義務等も追加してより充実した内容にしてはいかがでしょうか。会議では事故防止対策や災害時の避難方法等、日常支援の課題についても検討してはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方には、電話や会議の場で相談したり、報告をしている。	市の担当者には、会議等で面談する機会があるたびに報告や相談をしています。計画作成担当者は市の担当窓口を訪問し、個別の課題等についても相談しています。ホームでの判断が難しい利用者のグループホーム入居要件等について相談したことがあります。入院を伴うような事故は市に電話で報告し、書面でも報告をしています。管理者は市主催の集団指導や研修会に参加し、成年後見制度等についても活用できるよう準備しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム開設から身体拘束はしておらず、原則禁止行為であると言う事は全スタッフに周知できている。 勉強会にも参加している。	管理者は身体拘束をしないケアの大切さを重視し、マニュアルを基本に、年1回は職員研修をしています。マニュアルについては、毎年内容更新の可否についても確認しています。日中は施錠しないケアを心がけ、利用者の自由な生活を実現しています。外出したい利用者には職員と一緒に付き添う支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にも参加し、虐待について学んでいる。ホーム内だけでなく、ご自宅、ご家族様に対しても注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに成年後見制度を利用された方はいませんが、勉強会にも参加し、いつでも支援できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には見学して頂いて説明をしており、十分理解、納得した上で契約締結している。解約の際も話し合いの場を持っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議で外部者へ表せる機会を作っている。 又、意見は運営に反映する様、努力している。	家族の来訪は多く、職員は利用者の日々の様子を報告して家族の話も聞いています。ホーム内には行事の写真を掲示して家族に報告しています。年に2回写真入りのホームだより『ブルーベリー』を発行して、家族に送付しています。家族会を年に2回開催して、要望や意見を聞く機会にしていますが、最近では交流が中心で要望や意見等が出されることは少ない状況です。利用者には、毎朝、昨日食べた物を説明し、料理の本を見せようなど工夫して意見を出してもらい、夕食の献立や買物の内容を決めています。玄関には意見箱と記入用紙を置いて意見を出しやすくしています。	日々の職員の努力で、家族からの意見や要望は少ない状況ですが、管理者は今後さらに家族の意見や要望等を聴取して、ホーム運営に反映する予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、起案書等により、提案を聞く機会を設けている。	管理者は、毎月の定例会議で職員と意見を交換し、行事や支援の内容を決めています。職員は自由に発言し提案をしています。申し送りノートや朝夕の引継ぎ時に、職員間の意思疎通を図り、スムーズなホーム運営を実現しています。管理者や職員は起案書を提出して法人本部関係者に相談し、運営上の課題実現に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が生き生きとやりがいを持って仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの段階に応じた外部研修を受講できる体制を整え、法人内でも毎月研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市介護保険事業者協議会に加入し、事業者が連携して勉強会等を開催し、よりよいサービスを提供できるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と向き合い、じっくりと話を聞くことを心掛けています。ブルーベリーでは毎日買い物に行っており、その道中は密にゆっくり話せる時間です。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会を年に2回開催して、交流を深めている。 また連絡を取り合い、ご家族様の話を聞いたり、こちらでのご本人様の様子を伝えたりし、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インフォーマルなサービスを使い、地域の方々との交流を図っている。(夏祭りや地域の中学校の文化祭や運動会に行く) また1ヶ月に一度、隣接する保育園の園児達の訪問を受けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、わからないことを相談します。 特にブルーベリーでは料理等、先人の知恵を拝借させていただく機会が多いです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも十分なコミュニケーションを図り、同じ思いでご本人様を支援していく関係づくり行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力していただき、ご近所の方、知人の方に面会に来ていただいたり、外出、外泊したりする事も勧めている。	友人や知人の来訪は日常的です。職員は家族の了解を得て来訪者を接待し、利用者が楽しく過ごせるように面談をサポートしています。利用者が行きつけのスーパーや美容院等を継続して利用できるように、家族の協力を得ながら支援しています。利用者の希望があればいつでもホームの電話を提供しています。手紙を出したり、はがきを買いに出かけたりする等の支援もしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握している。 利用者孤立した場合、口論になった場合はスタッフが間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても面会等に行き、関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で話せる機会を設けている。 その時に話された事をケアプランにも繋げている。	職員は利用者に寄り添い、個別に話をする機会を持つことで、利用者の気持ちを理解するよう努めています。会話が聞き取りにくい場合には職員が筆記をして利用者に伝え、理解を得ています。利用者が気持ちを言葉で表せない場合には、表情やしぐさ、行動から利用者の気持ちを理解するよう努めています。職員は日常会話の中からも利用者の思いや願いを聞き取り、介護計画書に反映して支援に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様、本人、ケアマネジャーより、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、その日の状態を確認している。 毎日の申し送りでスタッフが共有し、月1回モニタリングも行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意見を尊重し、ご家族様、スタッフで話し合い、計画を立てている。	介護計画書作成時には利用者・家族の希望や意向を細やかに聴取しています。介護計画書は職員間で共有し、ケアプラン実施記録や家族の評価を基に、毎月モニタリングを行い6ヶ月に1回見直しをしています。更新時には家族との日程調整をして、必要時には医師や看護師等を交えたカンファレンスを行い、個別支援の充実を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は分かりやすく簡潔に書くよう心掛け、毎日の申し送りで情報を共有し実践や見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が提供できるよう、スタッフ間でのミーティング、ゆとりをもった人員配置で臨機応変に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や法人内にも協力を得て、楽しく生活ができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診がある。 また、必要に応じ敷地内のクリニックであれば受診への付き添いも行っている。	利用者・家族の意向に添った医療機関で、適切な医療が受けられるよう支援しています。近くにある同法人クリニックをかかりつけ医とする利用者がほとんどで、月2回の往診を受けています。その他の受診については家族同伴が基本ですが、家族の都合がつかない場合には職員が付き添い支援をしています。ホームでは同法人クリニックと提携して、緊急時にはいつでも適切な医療が受けられるよう医療連携体制を整えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日、看護師が出勤している為、ある程度の状態は把握している。 また、24時間オンコールになっており、適切な看護が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、ケースワーカーにすぐ連絡を取り、必要な情報提供を行っている。 法人内スタッフが定期的に病院を回り、関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、家族等と話し合い、希望された病院や施設等を案内している。	ホームでは「看取り支援は行わない方針」を明確にして、入居面談時に利用者・家族に十分な説明を行い、了承を得ています。利用者が重度化した場合には、利用者の状態や希望に添って、病院、老人保健施設、特別養護老人ホーム等へ移行できるよう支援しています。時には状態が改善してホームに帰って来られる利用者もおられます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会への参加、伝達研修を行っている。 また、対応方法を指示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会より、協力体制の契約は結べないとの事であるが、地域との良好な関係は築いている。 また、ホームで年2回、法人内で年2回の計4回消防避難訓練を行っている。	消防署と連携して併設施設と合同の避難訓練を年に2回実施しています。また、利用者も参加してホーム独自の避難訓練を年に2回実施しています。職員はホーム内の避難経路について確認し、非常時の対応等を共有しています。非常災害時の備蓄は隣接する同法人施設内の1階厨房に保管していますが、調査当日は担当者が不在のため、備蓄リスト等の確認はできていない状況です。ホーム内には1食分程度の食料品と水を保管しています。	同法人施設内の厨房で保管している備蓄品については、グループホーム用の備蓄リストを作成し共有してはいかがでしょうか。ホーム内の備蓄については一日分程度の食料品と水を保管できるように増量してはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には更衣をし、髪をとかす等の支援をしている。 また、外出時は希望に応じてお化粧品のお手伝いもしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立を決め買い物に行き、調理、片付けと一緒にやっている。	毎日の朝食、夕食は利用者と話し合っ てその日に献立を作り、利用者と買物 に出かけて材料を購入し、利用者と共 に作っています。昼食とおやつは併設 の同法人老人保健施設の厨房で作ら れたものを配膳しています。食事は利 用者の好みや状態に合わせて食べや すく工夫しています。利用者の誕生日 には希望に添った献立を作り、家族等 を迎えてみんなでお祝いをしていま す。家庭菜園で育てた野菜を調理して 楽しむ支援もしています。利用者の希 望を聞いて外食に出かけたり、おやつ 作りを楽しんだり、食を楽しむ支援に も力を入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をして いる	嗜好品や習慣等、入居時に尋ねてい る。毎日の摂取量も記録し、必要であ れば法人内の管理栄養士に相談して いる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にはハミガキをする様に支援している。 週2回義歯洗浄剤につけ清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しており、トイレへの案内をしている。	職員は利用者の排泄状況を細やかに把握して、時間を見て声かけをするなど、利用者一人ひとりの状況に合わせた自立支援をしています。夜間、必要な場合にはポータブルトイレも用意して、利用者の負担にならないよう配慮しています。散歩や運動、水分摂取、食物繊維を含む食品の摂取等、利用者の体調に配慮して快適な排泄ができるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れたり、運動をし、予防に努めている。 また、内服薬で予防もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴するかしないかは、一人一人に尋ねており、最低でも週2回以上は入浴できるよう支援している。	職員は毎日の日課として利用者が就寝前に入浴できるように支援しています。毎日入浴している人、2～3日に1回程度の人、それぞれの状況によって違いはありますが、職員は利用者の気持ちに添った支援をしています。ゆず湯や菖蒲湯等の季節湯も用意して利用者に喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても、その時の状態に応じ居室で休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルしており、いつでも見られるようにしている。 薬に変更があった際、申し送りでスタッフに周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力に合わせ役割を持って頂いている。 楽しみごとや気分転換の方法は個々によって違うことから、個別に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今すぐ出かけたい」と言われれば、希望に沿えない時もあるが、出来る限り沿うように努めている。 墓参りや外食、デパート等、ご家族にお願いすることもある。	利用者は地域のスーパーへ毎日のように食材等の買物に出かけています。また、ホーム周辺の散歩、家庭菜園の収穫や水やり、同法人施設のレストラン等にも出かけています。年間行事では近くにある保育園との交流、小学校の体育祭や中学校の文化祭見学、地域のお祭りや盆踊り、花火大会、遠足、花見等にも出かけています。家族の協力を得て墓参りや外食、デパート等にも出かけられるようにしています。外出支援については家族の要望から充実してきた経過があり、利用者が外出することはごく自然な状況になっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお金をお預かりしていて、どの程度であれば使用してよいか入居時に確認している。高額な物が欲しいと言われた時や必要性に迷った際はご家族様に連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話を使って頂いて良い事としています。 ハガキ等を郵便局へ一緒に買いに行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目で見てそこが何をする場所なのか分かるように張り紙をしたり、トイレは電気をつけたままにしたりしています。	ホーム玄関は木立と緑の芝生を通過した向かった先にあります。植栽や花に囲まれた通路を通り玄関を入ると広々とした食堂兼居間があります。天井が高く、庭園や家庭菜園も見渡すことができる明るい居間にはゆったりとしたソファと大きなテレビがあり、利用者全員がゆっくり過ごせる場所になっています。食堂のテーブルは来訪者があると数人で談話できるスペースに早変わりして、楽しそうな笑い声が聞こえる交流の場にもなっています。洗面所は使いやすく、食後には利用者の歯ブラシやコップを置いて生活習慣に馴染んだ支援をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名で話ができるようソファを配置したり、庭に向けて椅子を配置したりしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンとカーテン以外は全て持ち込みになっており、使い慣れた家具を持ってきて頂くようお願いしている。	ホームでは利用者に分かりやすいように居室の扉に表札を掲示しています。居室には備え付けのカーテンとエアコンはありますが、利用者はベッドやダンス、ハンガーラック、イス、鏡台、写真、ぬいぐるみ、利用者の使い慣れた家具等を配置して過ごしやすい工夫しています。職員は利用者と一緒に室内の清掃や整理整頓に取り組み、利用者が気持ち良く暮らせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には表札をたて、トイレやスタッフルームの前にも掲示している。居室から一步出れば共有空間があり、安心感もある。		